

AEDの設置について

今後設置を計画的に 進める予定／本庁総務課長



かどはら にわこ 議員
門田 仁和子

で、命を救うために何かしなくては、という命の大切さに対する意識を高めることも重要だ。万一の事故が起きた場合、後悔することの無いよう、町内九小学校全校に至急設置を望む。

問

黒潮町では、現在十カ所に設置されている。AEDは心臓に電気ショックを与えることで、心臓突然死から命を守る医療器具として、最近全国的に普及している。我が国では毎日百人が心臓突然死で亡くなっている。平成十六年から一般の人でも使用可能となり、駅など公共施設や自治体、学校への設置が急速に広がっている。AEDの普及によって、救命救急への関心が高まり、効果も着実に上がっている。学校で保健の授業を利用し、AEDの使用を取り入れること

答

植田 壯 本庁総務課長

AEDの早急なる整備の必要性は充分認識している。特に馬荷や加持川など中山間地域や小学校に整備できていない。平成二十一年度は小学校三カ所（拳ノ川、伊田、三浦小学校）山間地域二カ所（馬荷、加持川）計五カ所の設置を計画している。



中学までの 子ども医療費無料化を 今後の検討課題 ／健康福祉課長

問

子ども医療費無料化は、全国的に広がっている。無料化は病気の早期発見、早期治療も期待できる。県内では中学卒業までの無料化は土佐清水市、津野町、芸西村、馬路村。四万十町は小学六年生まで無料予定。高齢化が進む中、出生率が低迷、各町村とも若者が希望を持って子育て出来るまちづくりを進め、定住人口拡大に結びつけたいという事だ。黒潮町の小学生、中学生の入院、通院を所得に関係なく無料化早期実現を願う。

答

谷口明男 健康福祉課長

本町でそれを実施すると一千万円の一割が必要となり、現在子育て支援の環境として保育の充実を図ることに重点を置き、大方、佐賀

両地域に統合保育所を建設し、0歳児教育をはじめ子育て支援センターの充実、一時保育を実施し、保護者の不安の解消につなげるよう取り組んでいる。児童生徒の医療費無料化は、今後の福祉行政にとつて避けて通れない課題だと認識している。

黒潮町商品券について 給付金に合わせた発行は、しない／町長

問

昨年六月一千万円分発行した5%プレミアム付き黒潮町商品券はPR不足で知らない町民が多かった。又一枚千円券でほとんどの店でお釣りが出ず、不便さも目立った。総額二兆円の定額給付金支給に合せ、全国百二十九市区町村（二十四都道府県）の自治体や商工団体が発行を計画。10%プレミアム付きが多く、プレミアム分は自治体が負担している。

黒潮町に支給される給付金総額はおよそ二億一千万円強

答

下村正直 町長

前回発行の商品券について十分な分析が出来ていない。今回の定額給付金に合わせた発行はしないが、商工会では二十一年度にも発行を考えている模様。前回の分析の上、各部署と協議を支援したい。



目に入れても痛くないマイ孫と